

URL

承認番号	4090
研究課題名	早期胃癌ESD (Endoscopic submucosal dissection : 内視鏡下粘膜下層剥離術) 後のヘリコバクター・ピロリ除菌治療による異時性胃癌の抑制効果についての検討
研究の意義・目的	ヘリコバクター・ピロリ菌の感染が胃癌の原因であることが解明され、早期胃癌の内視鏡切除後にピロリ菌の除菌を行うことが、胃癌のガイドラインでも推奨されています。早期胃癌の内視鏡治療後のピロリ菌の除菌治療は、異時性胃癌（治療部位と別の部位に新たに発生するがん）の発生を減少させると報告されています。一方で、近年、長期間観察すると異時性胃癌発生リスクを減少しないとの報告もあり、現在のところ、その効果については議論の余地があります。このため、初発の早期胃癌に対して、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD: endoscopic submucosal dissection) を行い、かつピロリ菌に感染している方を対象として、内視鏡治療後のピロリ菌の除菌療法が異時性胃癌の再発に対して効果があるかどうかを明らかにすることを目的とし研究を行います。早期胃癌の内視鏡治療後に、再発予防としてピロリ菌の除菌を行ったとしても、再発の心配がなくなるわけではないため、現状では定期的な内視鏡検査が必要であり、今後増えると考えられるピロリ菌の除菌後の胃癌も含め、胃癌撲滅にむけての一助となりうると考えます。
研究期間	承認前の参加者のカルテ上の集積期間：2004年1月1日 ～ 2015年10月31日 承認後の参加者集積期間：承認後 ～ 2019年3月31日 ※対象患者は2004年1月1日～2015年3月31日にESDにて治療を行ったものとし、その後のフォローのデータは承認後に収集する。
研究対象者の範囲	2004年1月から2015年10月に大阪市立大学医学部附属病院消化器内科で、初発の早期胃癌に対して、ESDを施行された患者さまが対象です。
利用又は提供する試料・情報の項目	血液、排泄物、検査データ、診療記録等
利用者の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 自施設のみ <input type="checkbox"/> 共同研究機関に試料・情報を提供する <input type="checkbox"/> 共同研究機関から試料・情報の提供を受ける <input type="checkbox"/> 自施設が共同研究の代表施設である <input type="checkbox"/> 他施設が共同研究の代表施設である <input type="checkbox"/> 研究成果を公表する
研究機関の情報	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 講師 永見康明
代表施設のURL	該当なし
研究成果を公表する方法	日本もしくは海外の学会にて発表する 英文論文文化予定
試料・情報の提供方法	該当なし
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 講師 永見康明
拒否機会の保障	本研究の対象者の方は、問い合わせ先に連絡することによっていつでも本研究への参加を拒否することができます。また、研究への参加を拒否されても、診療に関する不利益等を受けることは一切ありません。
拒否を受け付ける方法	大阪市立大学医学部附属病院 消化器内科外来 06-6645-2316、17